



研究テーマ <生きぬく力の育成>

# ともに自己発展し続ける子どもをめざして ～心が動く授業をとおして～

本校では、昨年度まで自閉症スペクトラム児を対象に8年間にわたって研究を行ってきた。キャリア教育や地域協働をテーマとして見出してきた研究成果を、学校教育の柱となる授業づくりに生かすことが今年度からの新研究の立ち上げの第一歩となった。授業力の向上は本校教員がつけたい力とも合致している。教員一人ひとりが授業研究に取り組むことで授業力の向上を図るとともに、附属校としての発信力、教育実習生への一層の指導力の向上にもつなげたい。

研究テーマである<生きぬく力の育成>は本校の教育目標とも合致している。「ともに＝仲間と共に、地域の中で」「自己発展＝よりよい自分を目指し続ける子ども」の育成を目指す。よりよい自分を目指すために、本校が考える育成すべき資質能力について、新学習指導要領の目指すところを加味しながら概括して「もう一步踏み出せる力」と定義した。本校が育成したい力を具体化すること、そして、育成するための授業研究の効果的な方法を検証することが今年度の研究の目的である。授業研究にあたっては「心が動く授業」に視点を当てて、心が動いた場面に着目してその要因を探り、授業改善を行った。

## 心が動く授業

↑  
子どもの内面が揺さぶられる

喜びや興奮で心が弾む  
不安や葛藤、期待のある  
楽しい授業

**1学期**  
指導案様式検討  
学部事後研究会 1 2 3  
各学部での育成したい力の整理

夏季休業中  
中間報告会  
育成したい力の  
系統性の検討

**2学期**  
学部事後研究会 4 5 6 7  
たてわり事後研究会 8 9  
まとめ研（年報制作）

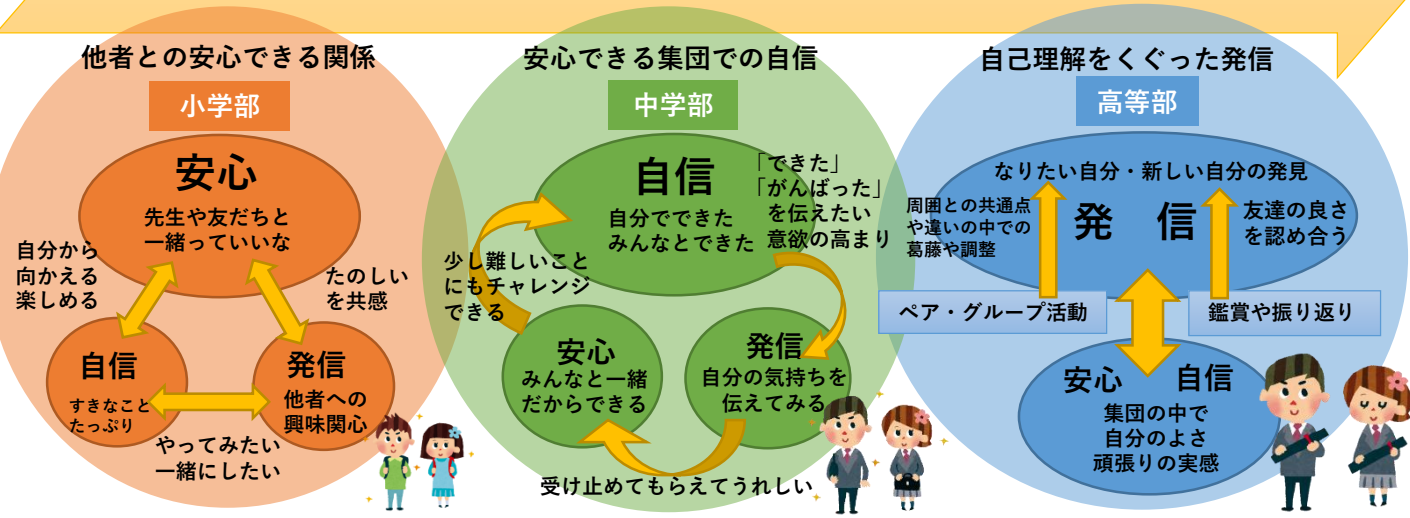
**3学期**  
公開授業  
事後研究会10  
次年度研究へ

夏季の校内研究会では、「育成したい資質能力の小・中・高の系統性」について議論を交わした。キーワードとして挙げられたのが「安心・自信・発信」である。小学部段階では、教師や友達との絶対的な安心感を育むこと。中学部段階では、集団の中で自信をつけていくこと。そして、高等部段階では、自分理解を深め、社会の中で発信できることが「もう一步踏み出せる力」へとつながるのではないかと。

この仮説を、2学期以降の事後研究会を通して検証していった。「安心」「自信」については、前年度までの研究でも重要なポイントとして押さえられており、小学部・中学部ではそれぞれを育むための授業づくりに主眼を置いて学部研究を進めた。「発信」については、言葉だけでみると「情報の発信」と考えがちであるため、高等部として「発信」をどう捉えるかという視点を持ちながら研究を進めた（各学部の項参照）。すると、「安心・自信・発信」は、どの学部での授業づくりでも必要不可欠な要素であり、それぞれが相互に作用することが「もう一步踏み出せる力」の育成への原動力になることが確認された。さらに、論議の中で新たに「向上心」というキーワードが注目された。「向上心を持ち続ける」ことこそ「自己発展し続ける子どもの育成」の到達点だと言える。次年度は「安心+自信+発信⇒向上心」を育成したい資質として押さえ、この「4つのしん」を育むための授業づくりに焦点をあてて検証していきたい。

## 本校が考える育成したい4つのしん 安心 + 自信 + 発信 ⇒ 向上心

### もう一步踏み出せる力の育成 ともに自己発展し続ける子ども = 向上心





# Round Study

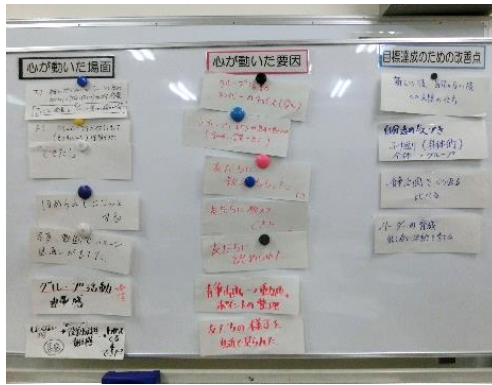
～めっちゃしゃべれる授業研究会をめざして～

授業研究を進めるにあたっては、指導案の様式検討と事後研究会に重点を置いた。業務の多様化に伴う多忙化で時間に追われる日々の中、短時間でも効率のよい、有意義な事後研究会を実施するために、今年度、本校が導入したのが《Round Study》である。

<話し合うポイント>  
 ①心が動いた場面②心が動いた要因  
 ③目標達成のための改善点



Round Studyの様子



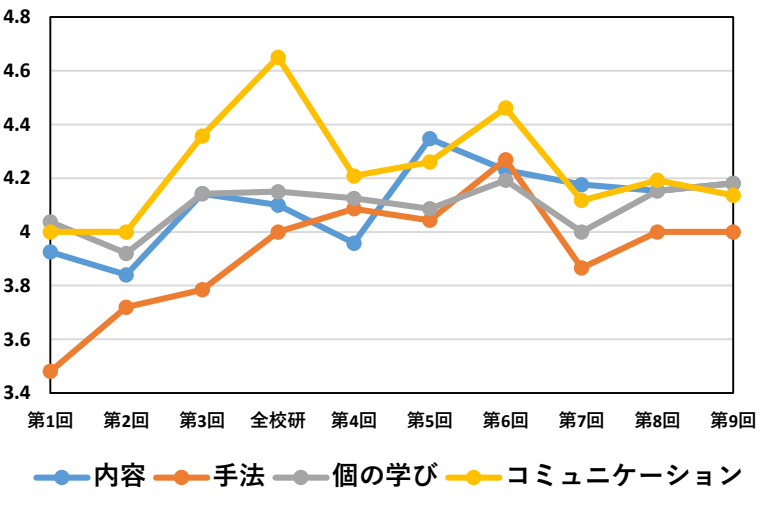
Final Roundでのまとめ

## 本校の事後研究会でのRound Studyの進め方

Round 0	課題の共有 (ルールの確認)	5分
授業の様子を見る	課題を知る	20～30分
	☆ポイントを絞ってビデオ鑑賞する。 ☆授業者は補足説明する。	
Round 1	伝え合う (3～4人のグループ)	15分
	☆書きながら話す (メモ) ☆ホストはもてなし役 誰もが平等に楽しく話せるように	
Round 2	旅に出る	10分
Round 3	☆ホストを残し他グループへ移動 ☆ホストは新しくきた人にメモを元にR1での話を伝え、話し合う。	10分
	つなぎ・深める	
Final Round	☆最初のグループに戻り、R2のことを報告し合う。 ☆グループの意見を短冊にまとめる。	10分
	まとめ	
Round E	☆短冊を示しながら発表しあう。短冊を分類・整理しながら自由討議	10分
	振り返り	
	☆ルーブリック評価・自由記述を用いて振り返りをする。 ☆成果をまとめ、配布する。	合計 70～80分

グラフ1 Round Study ルーブリック評価の推移

※各項目を5段階で評価。最低1～最大5で各回の平均値をグラフ化している。



## 参加者の感想

- ・短時間で全員の意見を吸い上げることができる手法だと思いました。みなさんの考えを知ることができました。
- ・3人程度のグループだと、話が広がりすぎず深めやすいです。グループで一旦深めてから、ほかのグループを見ると、意見の共通点、相違点を明確に意識できました。
- ・授業者でしたが、参加者とたくさんやりとりができ、今後の参考になりました。授業者が一方向的にしゃべらなくてもよいし、特定の参加者だけがしゃべるわけでもないの、良いやり方だと改めて感じました。
- ・Round Studyの手法は授業研が楽しくできて手応えがでていいなあと思いました。
- ・繰り返しRound Studyすることで慣れてきました。
- ・いろんな教師の視点で子どもの心的変容がとらえられておもしろいと思います。
- ・書きながら話すのが難しいです。
- ・記録は慣れている一人で、それぞれが話したことをまとめる方が流れがスムーズだと思いました。
- ・(縦割りで実施してみても)他学部の授業を見て、授業研究会がこのやり方なら参加しやすいと思いました。
- ・子どもたちの心の動きを考えながら観るのは授業の視点として有効なものだと感じます。

第1～7回は学部毎、第8・9回は縦割りで事後研究会を実施した。全般的に平均値が3.4ポイント以上で推移しており、授業研究会としてはおおむね評価は高かったと言える。特にコミュニケーション(論議や会話を大いに楽しめたか)の値は他の評価項目と比べて高く推移する傾向にあり、参加者の主体的な発言が促されていることが伺える。出張等で参加者が少ない回は数値が下がり、全校研のように大人数で実施した回が最高値になったことから、参加者数が多い方が、さまざまな視点での論議に広がりや深まりがあり、有効であることが分かる。一方、Round毎の時間の短さや話し合うグループを変えることで話題が限定されたり広げにくいという意見も聞かれた。話が盛り上がる手法ではあるが、その中で何を深めたいのかを共通認識しておくことが課題と言える。

こうした、教師一人一人が主体的に発言し合いながら、論議を進めるスタイルは、まさしく「主体的・対話的で深い学び」を具現化していると言えるだろう。今年度の成果や課題を受け、引き続き次年度も本校独自の「めっちゃしゃべれる」授業研究を進める中で、よりよい授業づくりを目指していきたい。

## お知らせ

### 2019年度研究発表大会

2020年1月31日(金)  
開催予定

2年にわたる授業研究の成果や課題を皆様と共有できることを楽しみにしております。御多忙中の事とは存じますが、多くの方のお越しをお待ちしています。

「安心」を育むためには・・・

- ・他者（先生や友だち）への興味関心をもつ。（〇〇先生、〇〇さんになりたい！）
- ・自分から物事に向かえる気持ち、自分で楽しむ力をつける。  
（わくわく・どきどき・やってみよう）

ことばかず 「〇〇ちゃんのドーナツ屋さん」

ドーナツ屋さん役の教師が登場！チョコやイチゴのカラフルなドーナツやトングに興味津々。自ら立ち上がり、トングを手にとってドーナツを注文。



わあ、ドーナツほしいなあ！

生活経験に即した魅力的な教材＝ドーナツ（食べ物）やトング、店員の帽子などリアリティのある教材。道具に憧れる（思わず触りたくなる）発達段階の子どもたちにピッタリ合った内容。

おんがく

「秋の歌を歌おう！鳴らそう！感じよう！」

「大きな栗の木の下で」が桜や柳の木に変身。柳の木の下にはオバケが！オバケになりきったり逃げたり戦ったりしている場面。



オバケ怖い～！ オ～バ～ケ～だぞ～

ピアノ演奏の力＝聴いて情景をイメージできるような旋律。曲調の変化の面白み。自由な表現の場が保障されている。友だちが体いっぱい表現しているのを見て、「自分もやってもいいんだ」と思えた。

心が動いた1コマ

ことばかず 「ハロウィンナイトボーリング」

ボールが当たるとキラ光る魔法のピンを使ったボーリングゲーム。倒れたピンと残ったピンを数えて「10は〇と〇」とみんなで呪文を唱えている場面。



(せーの)  
10は6と4！

非日常空間である真っ暗な空間での活動でドキドキワクワク。興味が継続しやすい。「10は〇と〇」という呪文のリズムが心地よく、みんなで手を繋いで唱えることで一体感が増している。

生単 歩け歩け事前学習

「比叡山の上でカレーライスを食べよう」

年間を通じて登山に挑戦する「歩け歩け」。しかし、登山に行くにはおかしな格好のゲストティーチャーが登場。大笑いする児童たち。



何それー！それじゃ行けへんよ～！

分かりやすい間違いで、思わずツッコミを入れたくなるような教材（ゲストティーチャーの格好）。ゲーム感覚で間違いを正していく面白さがあった。児童だけでなく、指導者間にも楽しい雰囲気の流れていた。

成果と課題

授業づくりにおいて大切にしたいのは2本の柱だということを再認識し、共有できた。1本目の柱は「題材の扱い方」で、自分から「できる・やりたい」と思えるような活動や全身を使うダイナミックな活動を取り入れることである。好きな活動や表現の場がたっぷりと保障されることで、自信が生まれ、一緒に活動している相手への安心感や信頼感が育ってきている。また、学習の展開について、静と動のメリハリをつけることで、児童の興味関心が継続し、表現の幅に広がりが見られた。2本目の柱は「教材の工夫」で、「環境設定・本物・小道具」という3つのキーワードが挙げられた。「どきどきわくわくやってみよう」を引き出す環境、絵や写真だけでなく五感を使って経験できる本物、活動を目や耳で捉えられる小道具を設定することで、児童の心が動く場面が多く見られた。

自由度のある活動が「心が開放され児童が表現しやすい」という大切さも指摘された一方で、ねらいやルールに沿った活動の上で、どのように自由さを組み込むのかは課題となった。また、一人ひとりの実態が違う中で、個々の児童の表現をいかに引き出すのか、どのように授業を仕組むのかは、今後も検討していく必要がある。

## 「自信」をつけるためには・・・

- ・仲間とともに少し難しいことにもチャレンジする。

### 美術 「いろいろな色をつくろう」

時間いっぱい色を混ぜ続け、フィルムケースや卵パックに集めた。20色以上作れて、嬉しそうに友達に披露した場面

赤は大、青は小で混ぜると・・・



活動する時間や量が保障されており、何度でも挑戦できる、失敗しても大丈夫という安心感があった。2色の絵の具の量を変えて色を作るといった手順が明快であり、自らどんどん試したくなる仕組みがあった。

### 音楽 「リズムセッションをしよう」

カラフルな楽器ブームワッカーで好きな言葉のリズムを全員が順番に披露した。そのリズムを友達と合わせて鳴らし、盛り上がる場面

ホッ・ト・ケー・キ♪

はい

(みんなで) ホッ・ト・ケー・キ♪



自分の思いついた言葉がリズムになる楽しさがあった。どの言葉も間違いではなく個性としてみんなに受け入れられる心地よさがあった。全員で合わせて鳴らすことで楽しさを共感できた。

## ♡心が動いた1コマ

### 性教育 「ステキなレディになろう」

実際と同じ量、大きさ、物、映像等の教材を見て、実際に体験することで「なるほど」と気づいた場面



そうやって使うんだ!

実際に体験したり、クイズに答えていく形式にして考えたりすることで、主体的に学べた。知識を視覚的に理解し、今までの知識と新しい真実の違いに気づくことで、驚きや納得する姿があった。

### 作業陶工 「色々な技法に挑戦」

その都度、教師が指示をしなくても、工程を理解し、見通しをもって主体的に活動している場面



これの次は、あれだな。

1年生からの作業学習の積み上げを基盤に少し難しい課題にも見通しをもって自ら向かえた。作業の流れを確認しながら進められる掲示物があった。安心できる集団の中で、やることは決まっているが、自分の個性を出す余地があり、個々の目当てにつながっていた。

## 成果と課題

中学部は学部目標として「仲間とともに」を合言葉に教育活動に取り組んでいるため、授業研究を進める中でも「仲間」を意識して取り組まれている学習が多くあった。こうした「学部集団＝安心できる、ありのままでいられる」という基盤があったからこそ、心が動く授業を展開できたと考える。安心をベースに、発達段階に応じた魅力ある教材が、生徒たちの気持ちをひきつけ、「やってみたい」「友だちみたいにしてみよう」という主体性を引き出した。仲間認められ、受け入れられることは、安心の基盤を強固にするとともに、自信へとつながり、次のチャレンジへの原動力にもなったと言える。また、少し難しい課題にチャレンジし達成できたことで、「できた喜びを共感したい」「自分のがんばりを友達に知ってほしい」という思いが、発信したい気持ちの芽生えになったと感じる。生徒の心が動いたタイミングで、教師が発信しやすい場面を作ることの重要性を強く感じた。

今年度の研究では、各教科や単元における授業一つ一つに焦点を当てて研究してきた。今後は、本校中学部が教育課程の中心として押さえている生活単元学習と各教科とのつながり、発達課題や生活年齢との関連なども含めて研究していくことで、本校中学部の教育課程の整理へとつながっていききたい。



## 高等部段階での「発信」とは・・・

- ・ 集団の中で、自分の頑張りやよさを実感し、自分の思いをツールや言葉を用いて表現する。
- ・ 友だちとのかかわりの中で、試行錯誤しながら課題解決しようとする。

### 美術 「小さな生き物の世界」

テーマである「小さな生き物」が住んでいる草原の背景を描き、みんなに自分の作品を紹介している場面



細長い葉っぱや丸い葉っぱを描きました。

教師が描いたモデルや実際の草原の写真を提示したり友だちの表現を見たりすることで、意欲的に生徒たちが活動することができた。自分の描いた絵を友だちに紹介する鑑賞の時間を設け、自分の気に入っているところやがんばったところを発表した。自分の作品のよさや自分が友だちに認められている心地よさを感じる時間になった。

### 音楽 「歌の中からみつけた！」

「夏の樹」の歌唱。好きな歌詞が書かれたカードを選び、歌に合わせて自分のカードを掲げる活動の場面



わたしの選んだカードはいつかな？

教材の歌詞は、どれもが主役になれる言葉で、子どもたちが選びやすいものだった。選んだ歌詞カードを歌の中で自分の順番で掲げる活動をした。どの子も、自分の選んだカードが歌われるタイミングをわくわく待ちながら参加できた。中には、選んだ歌詞を体で表現して、歌う姿が見られた。

## 心が動いた1コマ

### 体育 「見ている人を感動させる演技をしよう！」

グループ活動の連帯感が生まれたり、グループの中で「できた」という実感がわいたりした場面



もう少し手をまっすぐにした方がいいなあ。

運動会で演技する組体操の技の様子を動画で撮り、動画を見合って技の向上を目指した。グループで話し合う時間を設けたことで、「友だちに教えてもらってん」「この技教えたの、ぼくやねん！」など、「できた」喜びを感じ、自信や次への意欲につながった。

### 職業 「木工おもちゃ作り ～保育園交流に向けて～」

具体的な模型を動かしたことで難しさを感じたり、修正したりした場面



これはどうだ？

それ、いいなあ。

地域の保育園5歳児との交流で使用する、木工パズルを考える授業。生徒同士の人間関係を考慮したペアを設定した。おもちゃの模型を動かしたり、他のグループからヒントをもらったりしながら、自分が好きなものだけでなく、園児が楽しめるものにするにはどうすればよいか、葛藤することで考えを深め合えた。

## 成果と課題

「発信」という言葉には2つの捉え方ができることを共通理解した。1つは、経験したこと、身に付けてきたことを通して考え、発信するというものである。もう1つは、今自分の思っていることを発信し合うことで、共通点や違いに気づき、葛藤や調整を繰り返しながらもう一度自分の思いや願い、またその変化に目を向けることで、新たな考えを発信するというものである。どのように発信するかではなく、発信を通してどのように考えるかに注目できたことが大きな成果になった。

言葉による発信にとらわれず、絵や音楽などで表現することや目線や動きなど言葉以外の発信も大事にとらえ、全体に返す言葉かけをすることで、できた自分を実感し、自分のよさに気づけた。また、カードや楽器などのツールを使うことで、安心して自分を表現する姿も見られた。グループやペア活動では、友だちの意見やよさ、頑張りに触れることで、生徒たちの心が動き、自信や次への意欲につながった。

集団の中で自由に発信する生徒がいる一方、自ら発信することが苦手な生徒もいた。彼らが自分を出せる集団とはどのような形なのか、さらに授業の中でどのような取り組みをすれば深まりのある発信になるかについては、教科の枠を超えて検討をしていきたい。